



追波(おっぱ)運動公園、自衛隊の拠点になった。野球場などは仮設団地になっている。



飯野川(川向の町) **河北総合センター(ピックアップ)**は避難所になった。元々多目的に活用できる施設ということもあり、避難所としても機能的であった。



山の上の高校の体育館は**遺体安置所**...体育館は避難所か安置所になった。



福地閘門を開めたので、福地地区は津波が到達しなかった。小学生だけが6人亡くなった(8人中6人)。福地から先は通行止めとなり、3月11日はたくさんの人が民家やビニールハウスで泊まった。



路側帯は大川中の生徒が登下校で使う自転車道路。震災後2年で大川中は閉校。ここを通る中学生の姿は今はない。そこで生活する人も風景なのだ。



谷地地区から先は湖のようにになっていた。富士沼とつながった



大川中学校は25年3月に閉校。跡地が野菜工場、ソーラー発電所になった。(良葉東部)



間垣地区 大川中から先、堤防が切れていた。立ち並んでいた家はほとんど残らなかった。



三角地帯 子どもの遺体が並べられていた。橋がダムのようになり、信号機より高い波が襲った。



校門 震災後、自然に祭壇になった。(現在、校門は慰霊碑に移動)



慰霊碑 真ん中が児童、両脇は地区(近距離からの撮影はご遠慮)



アツセングリホール(多目的室) 集会や作品展示などが行われていた。ボランティアの方がツリーなどイルミネーションを飾っている。



教室 半分は机が並べられ、半分はクーク・展示スペースとして広々と使っていた。(1階は1、2年生)



中庭 一輪車で遊んだり、お花見をしたりいろんな活動をしていた。大川小のほとんどの子たちは一輪車に乗れる。



渡り廊下 海側へ倒れていて、川から巨大な波が襲ったことを示している。ガラス張りでモダンな作りだった。



体育館 ステージの両脇と、出入り口だけが残った。津波の破壊力がわかる。



野外ステージ コンクリートの反響板は倒れている。壁面にある「未来を拓く」は大川小の校歌のタイトル。隣に土俵もあった。